

【巻頭言】

ノテスタイン先生退職に寄せて

中京大学経営学部教授 向日恒喜

ノテスタイン先生は1990年に中京大学商学部にて助教授として着任され、1991年、中京大学経営学部の開設に伴い本学部へ移動、1997年に教授に昇任されました。ご専門はオペレーションズリサーチで、本学部では「経営モデル分析」や、英語で開講される「ビジネス統計」を担当されました。大学においては、国際センター所長を務められるなど、大学、学部の国際化推進に貢献されました。特に経営学部は開設時から国際化を一つの柱としていたため、ノテスタイン先生の存在はそのことを学外にPRする上でも大きなものがありました。今でこそ英語を母国語とした経営学の専任教員は、さほど珍しくありませんが、開設当時はなかなかのインパクトがあったようです。ただインパクトだけではなく、学部内では、パソコンを用いた意思決定に関する講義や、英語で統計学を教える講義を担当いただくなど、まさに現代のグローバル社会、情報社会、ビッグデータ社会を先取りする取り組みにご尽力いただきました。

ノテスタイン先生の気さくな人柄は、教員、そして学生から慕われ、先生方の中ではその人柄を反映してか、「ノテさん」と呼ばれていました。20年ほど前の経営学部の新入生オリエンテーション合宿のことです。先生方の自己紹介が続く中で、ノテスタイン先生の順番が回ってきたときに、先生は学生が疲れているのを察し、その場に学生を立たせると、明るいノリでストレッチを始められました。それ以来、新入生オリエンテーションでは、毎年、ノテスタイン先生によるストレッチ体操、通称「ノテ体操」の時間が持たれるようになりました。この「ノテ体操」が長年に渡って続いたのも、ノテスタイン先生の人柄あってこそだと思われまます。

私個人のノテスタイン先生の思い出は、採用の面接に立ち会っていただいたこと、在外研究の滞在先の大学に、国際センターの短期語学研修の学生引率で訪問され、時間を一緒に過ごさせていただいたこと、また国際学会での発表にご協力いただき共著で研究発表させていただいたことなどが挙げられます。

最初に述べたように、グローバル化、情報化、そしてビッグデータ化が進む社会において、今こそ、ノテスタイン先生の英語と数学のスキルが必要とされるときに、先生が退官されることは大変、残念だと感じています。ただ、ノテスタイン先生が残して下さったものを土台に、これからの経営学部を築いていきたいと思われています。

ノテスタイン先生、長年に渡り、経営学部、そして中京大学のためにご尽力いただき、ありがとうございました。